

大阪府の環境施策のあり方について、2点意見します。

横山 葵

1 府民主体であるべき

現在の環境総合計画の基本方向の一つに「参加」をキーワードがありますが、まだまだ「府民主体」にはなっていないと感じています。

地球温暖化やごみなどの環境問題に対しては、府民一人ひとりが考えて行動する必要がありますが、個人の意識や行動を変えるというのは、行政が単に啓発するだけではなかなか難しいように思います。

行政が音頭をとっても、府民は受け入れられないと動きません。府民自らが考えることで、府民が動きます。府民の中には意識の高い人もたくさんいます。

行政側も府民側もお互いに相手が何もわかっていないと、距離をおく雰囲気も残っていると思います。まずは同じテーブルにつこうと努力することが大事だと思います。

大阪の人はコミュニケーションが活発で、他地域に比べ、民の中で情報が広がりやすいというアドバンテージがあると思っています。

行政の方には、もっと府民の中に入って、府民をサポートしていただき、府民主体で取り組んでいくという姿勢を打ち出して欲しいです。

2 環境ブランディングを図り、しっかりと情報発信していくべき

第3回部会での府民意識調査の結果をみていますと、大阪の空気や水などの環境の現状は悪いと回答されている方がかなり多いですが、これは必ずしも実際の環境の現状をご存知であるわけではなく、意識の問題もあるのではないかと考えています。

- ・以前、友人と食事に行った時に、淀川のうなぎとしじみが出てきました。友人は、「淀川の水は汚いので食べたくない」と言っていたのですが、淀川の水質データを見せると「こんなにきれいになの？」と驚かれたこともありました。

大阪の環境に対して悪いイメージを抱いている人が多いとすると、それは大阪の将来の環境にとっても大きなマイナス要素であると考えています。

例えば、大阪の農業を考えると、

大阪の環境が悪いというイメージ　大阪の農産物が（高く）売れない　農家の経営が苦しくなる　遊休農地が増える　大阪の環境が悪くなる、という悪循環になります。

大阪独自の環境ブランディングを図り、大阪は環境に力を入れているということをしかりと情報発信して欲しいです。